

# 日産 ノート NISMO S・ノート e-POWER NISMO に決定

ニスモ エス イー パワー ニスモ

左は八工 OG 松村葵さんと愛車ノート e パワーニスモ・右は川西潤と愛車ノートニスモ S (前期型)



みなさん、お久しぶりです!新聞部OB川西潤です。僕が在学中に車特集を開始して、第6弾を迎えた今号に、飛び入り参加します。八工を卒業したら、どんな車に乗りたいか、皆さん、もう考えていますか?無類の車好き、川西の選んだ車を紹介します!

## 僕らがコレにした理由

国内販売首位を48年ぶりに獲得した日産車「ノート」を、ニスモがスポーツチューンを施した。スポーツモデルの「ノートニスモ」のスペックは、排気量1600ccの直列4気筒NAエンジンを搭載し、5足のMTを組み合わせた本格的なスポーツハッチバックモデルである。足回りを強化し、車体裏に補強バーを6本追加し、ボディ剛性を高め、新開発されたブリジストン(当時)のポテンザを履き武装している。

また空力を考えたエクステリアデザインに、ニスモカラーである赤ラインを取り入れたインテリアで、かなりこだわりのある車だ。

価格は220万円程度、現在の後期モデルは230万円程度となっている。通常のノートが180万円程度なので、高価なモデルではあるが、ここまで手を加えているため、むしろお買い得であるとも言える。

川西が、なぜこの車に決めたのかと言うと、卒業を間近に控えた私が欲しい車の条件は以下の2つ。新車であること、MT車であること。

今現在、新車で買えるMT車は限られている。候補になったのはトヨタの「86」と「オリス」、日産は「ノートニスモS」と「マーチニスモS」、ホンダ「S660」、スズキの「スイフトスポーツ」と「アルトワークス」の7車種。

全てのデザイナーで見積もりをし、5車種は試乗をした。最終的に、トヨタ「86」と日産「ノートニスモS」の2択となった。

その中でノートに軍配が上った理由は、「アクセルの敏感さ」だった。少し踏むだけで吹き上がるエンジンに惚れたのが一番の理由だ。そしてノーマルでもいい音がするマフラーも実がいい。元が「ノート」であるため、室内空間も広く、実用的であり、使い勝手も抜群だ。

納車後は、すぐにホイールを交換し、ダウンサスを入れ、車高も落とした。その後はミラーをカーボンにし、エンジンルームにはタワーバーを入れ、剛性を上げるなど、カスタマイズをした。次はマフラーを変えたいと思ってる。ニスモがチューンしているため、ニスモから専用のチューニング部品が販売されているのも嬉しいことである。

難点としてはスポーツモデルであるため、乗り心地が悪いこと、MT車であるため渋滞に合うと辛いこと、車高が低いため段差や急な坂でパンパーをこすること、などいくつかあるが、それは同時にこの愛車と歩んだ思い出でもあるため、買い替えを考える理由にはならない。廃車になるまで乗ろうと思ってい

るくらいにお気に入りである。しかし、いつまでもこの車で遠出はちょっと辛いのも本音。というところで、実は今夏セカンドカーを手にする。「メルセデスベンツE350アバンギャルド」だ。機能充実・至れり尽くせりの高級車・週末遠出の強い相棒になること必至のこのベンツについては、次回車特集

## NISMO(ニスモ)ってなに?

ニスモとは「日産モータースポーツ」の略。日産車をスポーツモデルにチューンし販売などをする。専属チューニングメーカーだ。トヨタには「GRスポーツ」、ホンダには「無限」、ベンツには「AMG」とそれぞれの大手自動車メーカーに専属の会社が存在する。親会社が販売する車をスポーツモデルにチューニングして販売する以外に、スポーツカー自体を開発する場合もある。ニスモからは現在、GT-Rニスモを筆頭に、ノートやセレナ、フェアレディZなど9車種のニスモモデルを販売。MT使用の本格スポーツモデルから、AT使用の廉価モデルまで多種に取り揃えている。

OGの松村葵さんの愛車は、ニスサン「ノートeパワーニスモ」だ。最新モデルのニスモは「eパワー」を搭載している。これを選ぶところがさすがだ。「eパワー」とは日産が新たに開発したハイブリッドシステム。トヨタのハイブリッドシステムに唯一対等に對抗できるシステムである。

普及している「ハイブリッド」は、エンジンパワーを補助するように電気パワーを上乗せし、エンジンの負荷を抑え燃費を向上させるもの。一方「eパワー」の動力は、100%電気力で駆動させる。エンジンは、電気を作るための発電機の役割であり、タイヤを動かすことはないのが大きな違いだ。

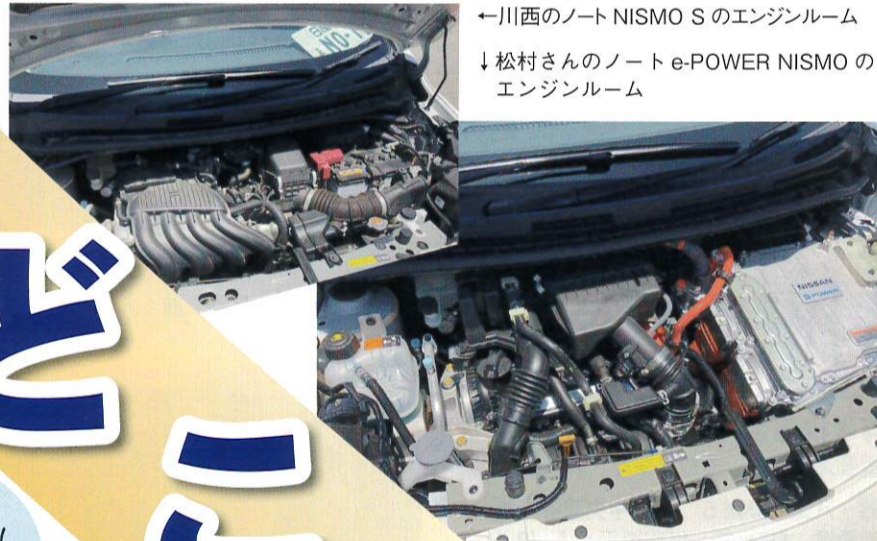
エンジンは回転数が変動することが燃費の悪化につながるのだが、「eパワー」は発電用であるため、一番効率の良い回転数でのみ回るうえ、バッテリーも常にエンジンで発電が可能のため、大型にならず重量も抑えられる。

回転数の変動するハイブリッドと違い、常に高効率の回転数で発電するため、高燃費が実現可能となる。駆動はモーターで、加速がよくストレスなく走ることができ、静かである。次に世代

「eパワー」次世代ハイブリッド

第7弾でたっぷり紹介いたしましす!乞うご期待!

川西セカンドカーのメルセデスベンツE350



←川西のノート NISMO S のエンジンルーム  
↓松村さんのノート e-POWER NISMO のエンジンルーム



阿部先生の輝き、ハンパない!僕もこんな乗ってみたい〜(宙)

その前に45年ほど働いた(星・貴)

↑後部のサロン。フルフラットにして大人3人が寝られる。

# せとこままでも